



幕末の江戸を襲った地震と台風

1号館2階ラウンジ

安政2(1855)年と安政3(1856)年に立て続けに江戸を襲った地震と台風について、江戸時代末から明治時代初頭にかけて活躍した戯作者で新聞記者である仮名垣魯文^{かながきろぶん}が取材した記事に、多色刷りの版画を添えて刊行された『安政見聞誌』^{あんせいけんもんし}と『安政風聞集』^{あんせいふうぶんしゅう}を展示します。幕末の江戸を襲った災害の様子と、その後の暮らしぶりが窺える貴重な史料です。あわせて、安政2年の地震直後にしりぞいた大量の瓦版(現在の新聞のような摺り物)の中から、鯰^{なます}を描いた多色刷り版画(鯰絵^{なますえ})も展示します。

築地西本願寺が暴風雨に見舞われる



『安政風聞集』中

安政3年8月に東海から関東にかけて大きな被害を及ぼした台風によって、江戸も暴風雨と高潮に見舞われ大きな被害が生じました。築地の西本願寺(現:築地本願寺)は、安政2年の地震の際には屋根瓦が少し落ちただけでしたが、今回の台風では大風によって本堂が倒潰してしまいました。しかし幸いにも、本堂に避難していた人々と本尊は、直前に移動していた無事でした。

京橋北の中央通りで火災発生



『安政見聞誌』上

四辻に土蔵造の町屋が建ち並ぶ江戸有数の繁華街であった南伝馬町三丁目は、安政2年10月に発生した地震によって多くの町屋が被害を受けましたが、意外にも潰れた町屋は少なかったようです。その後、近隣からの延焼によって一帯は焼失してしまいました。

恵比寿様が職人に変装



鯰絵「瓢箪」

職人の姿をした恵比寿が瓢箪で鯰を押さえている姿と、鯰の息から生じた場面に、地震後の復興景気で儲けた職人たちが、酒宴を開いている様子が描かれています。恵比寿は神々の留守居を勤める留守神であり、鹿島大明神に代わって瓢箪で鯰を押さえています。